

交流集会運動は参加者だけの運動ではない！！仲間との本音の討論から職場や生活の不安や不満を明らかにし、夏期交流集会へ結集しよう！！



旭川地方協夏期交実行委員会ニュース

第1号

【発行】
2014年6月2日
旭川地方協
(宗谷・留萌・上川)
夏期交実行委員会
発行責任者
実行委員長 星野

夏期交まで
あと19日！

職場と生活を見つめ直そう！

事前の取り組みその1
私たちがどのように合理化されようとしているのか？給与制度の総合的見直しや人事評価制度についての学習に取り組みよう！

事前の取り組みその2

職場や生活について、職場の間と本音で話し合い仲間とのつながりを強化しよう！

旭川地方協夏期交流集会実行委員会・実行委員長 星野（留萌地本青年部長・小平町職）です。今月、いよいよ夏期交流集会在開催されます。『交流集会運動』は、ただ単に集会を開催するの



▲実行委員長 星野（小平町職）

が目的ではありません。私たちはこれまで、『行革』の名のもとにコスト削減による賃金切り下げや人員削減、機構改革など合理化攻撃を受けてきました。その結果、今の職場や生活はどうでしょうか？時間外勤務の慢性化、メンタル不全で職場にいられない職員の増加、採用抑制による年齢構成の歪みなどが表れてきていませんか？この先、安心してゆとりある職場環境でより良い住民サービスを提供していくためにも職場で起きている事実と向き合っていかななくてはな

りません。夏期交流集会在「反合理化闘争の集約点」と位置づけ職場から運動を進めていくことが必要です。これまで、旭川地方協実行委員会を開催し、各地本の確定期・春闘の成果や課題を確認してきました。この間、「時間外の予算が確保されておらず支給額が決まってしまうという」「休んでしまうと業務に支障が出てしまうので、体調不良などの時以外休暇を申請できない」といった声が出されており、課題の解決にむけて、これらの問題の本質

を明らかにしていかななくてはなりません。旭川地方協では、『新たな視点で新たな気づき』をテーマに運動を展開していきます。基調講演後の分散会では職場レポートを活用することで、仲間の思いや悩みを共有し「その問題の本質はどこにあるのか？」と、さまざまな視点から、周りの仲間と率直に話し、一つでも多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、各単組・総支部内で夏期交アンケート・賃金リーフ（給与制度の総合的見直し）などを活用した学習や、仲間との職場実態討論など事前の取り組みの強化をお願いします。最後に全単組の仲間の結集をお願いします！皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。



▲研修館「楡」。分散会場にもなっています。



▲和寒町総合体育館。アリーナが全体会場。



▲現地で準備する実行委員会

目的と目標を明確にし運動しよう!

青年部長会議（札幌市自治労会館）が5月24日・25日に開催されました。

『青年部運動は何のためにあるのか!』とい



（講演する情熱あふれる石川さん）

った、運動の原点を確認していくために、比布町職の石川貴久さんに「みんなが青年部運動を作ろう」と題し講演をしていただきました。

「より良い職場を作っていくことは、より良い地域を作っていくことにつながる」自治体職場における労働運動の基本的な考え方を学び直しました。

また、私たちの青年部運動の獲得目標は、要求書を提出し1つでも多くの要求を勝ち取ることで

はなく、悩んでいる仲間と本気で向き合い、問題を解決するために、周りの仲間と一緒に考え学び合う運動の過程で生まれる組織強化こそが最大の獲得目標あり、そして、仲間のための運動でなければならぬと話されました。

各単組の役員をはじめとする多く参加者が青年部運動の意義と目的を確認することができた講演でした。

中央大交流会カンパのお願い!



交流し、まなびあい、あらゆる合理化を踏ね返し、地方自治確立にむけ産別闘争を組織しよう!

旭川地方協では、中央交へ各地本から1名ずつ仲間を送り出すため、カンパを行っていただきます。各単組・総支部からカンパしていただいています。が財政的にいまだ非常に厳しい状況です。

地方協で共有した仲間の思いを全国の場に持ち寄るために、全体で仲間を送り出す意思を確認する意味で、基本組織も含めたカンパの協力を再度お願いします!!

開催地 和寒町紹介 Vol.1 「越冬キャベツの里」



北海道から元祖 越冬キャベツの里



（雪から顔を出すキャベツ）

このコーナーでは、開催地「和寒町」の特色のある「グルメ」「イベント」「スポット」など、和寒町の魅力を伝えてきます!

今回はグルメの中から「越冬キャベツ」についてご紹介いたします。越冬キャベツは、雪が降る直前に収穫したキャベツをそのまま畑に置いて、雪の下で保存するというものです。

昭和43年に、秋に畑に残したキャベツが冬を越し、春になって畑にあった青々としたキャベツを偶然発見したことにより、研究の始まった越冬



（越冬キャベツを使ったプリン）

キャベツですが、安定した品質を確立するまでには、およそ10年間の試行錯誤あったそうです。徹底した品質管理のブランド化されるほどのその味は、甘さと瑞々しさいっぴいのもとなつていきます。

また、この越冬キャベツはプリンとのコラボレーションも果たしています。絶妙なバランスの香りがするプリンとなっていて、想像を超えたその組み合わせは「1度は食べてみたい」と遠くから買いに来る人がいるほどです。ぜひ皆さんもご賞味あれ!!